

富士市立高校 地域交流イベント 第27回 人工芝で遊ぼう！

富士市立高校の安全な人工芝グラウンドで
高校生と一緒に楽しく体を動かしませんか？



日時：10月17日（金）10:45～11:45



場所：富士市立高校 人工芝グラウンド

※雨天・高温時は体育館で実施



持ち物：動きやすい服装、飲み物



参加費：無料



申込み：当日受付（事前申し込みは不要）



お問い合わせ

☎ 0545-34-1024（富士市立高校 高林）

☎ 090-2187-0499（富士スポーツクラブ 池谷）

これからの学校教育の課題を深める

課題2 地域・家庭とともに生徒を育てる

組織的な**地域連携**の中で 生徒を育み、よりよい学校を創る

—— 静岡県・富士市立高校の実践から考える ——

学習指導要領の前文にもある通り、生徒の資質・能力の育成は、生徒や学校にかかわるすべての大人に期待される役割となっている。地域全体で生徒を育てる学校づくりを推進するためには、学校・地域・家庭の連携が欠かせないが、学校と地域・家庭は、互いにどうかかわり合うとよいのだろうか。また、どのようなことが課題になるのだろうか。教育理念の1つに「コミュニティ・ハイスクール」を掲げる、静岡県・富士市立高校の実践を通じて考える。



地域に開かれた「コミュニティ・ハイスクール」として、様々な地域交流事業を数多く行う富士市立高校。地域住民等が学校運営に参画する学校運営協議会も、継続的に活動している。



地域連携実践レポート

「第22回 人工芝で遊ぼう」

(2023年5月18日開催)

同校では年2回、校内の人工芝グラウンドにおいて、地域の未就園児とその保護者を対象とした交流事業を行っている。スポーツ探究科の2年生とボランティアの生徒（教員志望者、保育士志望者など）が、人工芝を生かした遊びを考案し、遊具の準備から運営までを行う。生徒たちは、子どもたちがけがをしないよう、細心の注意を払いつつ、子どもたちの様子や反応を見ながら遊びの内容を変更するなど、臨機応変に対応。あちこちで子どもたちのはしゃぐ声が響き、笑顔がはじけていた。



「地域の人との交流を通して、社会で役立つコミュニケーション力を身につけたい」と、取り組みへの期待を語る生徒も多かった。



どの遊具でどんな遊びをするのかは、すべて生徒が計画。教師は見守るだけで、まさに生徒が創る地域との交流の場になっていた。

保護者の声



上の子の時から、定期的に参加しています。人工芝で遊べる機会はなかなかありませんし、大きいお兄さんやお姉さんに遊んでもらえる経験も貴重だと思います。近年はコロナ禍などもあって、人とのかわりが薄れてきているように感じます。大きなイベントでなくてもよいので、学校が中心になって、子どもたちが人と接する機会をつくってもらえるとありがたいです。

〈青木千明さん〉



上の子2人が参加して、とても喜んでいたので、今回も参加しました。人工芝なので安全ですし、大きいお兄さんやお姉さんが遊んでくれる機会も少ないので、子どもたちにとってはよい経験になっていると思います。今回は未就園児が対象でしたが、園児や小学生が、縄跳びや鉄棒、自転車の乗り方などを教えてもらえるイベントを企画してもらえるとうれしいです。

〈望月真希さん〉



富士市の広報紙を見て、このイベントを知りました。人工芝で遊ぶ機会は貴重だと思い、今回初めて参加しました。子どもの様子を見ると、最初は緊張していたようでしたが、高校生が優しく接してくれたので、だんだん楽しめるようになっていったと思います。広くて立派なグラウンドで遊ぶことも新鮮に感じているようでした。私自身も市民として、富士市立高校をより身近に感じられるようになりました。

〈高田恭平さん〉

生徒の声



子どもたちと遊んでいると、自分たちが必要とされていると感じられるので、やりがいがあります。この活動を通して、1人でも多くの子どもが、身体を動かす遊びや運動を好きになってくれたらうれしいです。「究タイム」という探究学習の時間に、富士市の魅力や課題について調べていますが、実際に子どもたちと接したことで、さらに富士市を身近に感じられるようになりました。

〈小林晴香さん〉



準備の段階では、自分たちは何をすべきかを考え、みんなでアイデアを出し合いました。小さい子どもたちに楽しんでもらうためには、まず、自分自身が子どもの気持ちに戻って考えることが大切だと思いました。また、今回のような場をつくることで、保護者同士の交流が生まれれば、お母さんたちの負担感を減らすことにもつながります。保護者にとっても意味のあるイベントになっていたらうれしいです。

〈篠原柚葉さん〉



私は部活動では野球部に所属していますが、試合にはいつも、地域の方が子ども連れで応援に来てくれます。自分たちは地域に支えられていると感じる機会が多いので、今回は地域に恩返ししようという気持ちで取り組みました。計画から準備、運営まで、先生の手は借りず、ほぼすべてを生徒たちで行いました。子どもたちにけがをさせないことを第一に考え、どうしたら楽しんでもらえるかという視点で、アイデアを出し合いました。

〈佐藤壮琉さん〉